兵庫生物　14（5）：365－366，2014

追悼　室井綽先生

大賀　二郎*

「ハチクの苗をみやげにもって来たよ。庭に植えるというものではないが，盆栽のように育ててみてください。」室井綽先生にいただいたのは小さな株であった。あれから30数年。大鉢が割れて地植えしたのが，あれよあれよといううちに狭い庭を占領してしまった。そのハチクはキッコウチクでもあった。しかもその節が伸び上がったところで妙な形が現われた。よく見ると人の顔とも想像できる。仮称人面竹である。わたしはかってにそう呼んだ。

自然は不思議な造形をする。そこにあたかも意思があるように。更によく見ると，がっしりした人の顔。竹林に差し込む光条の中で，室井先生の尊顔が浮かんだ。

懐かしい想い出が去来する。国敗れて混沌とした時代であった。わたしはすべてを失い虚脱状態にあつた。そのとき私は神戸市役所に勤め始めたばかりであった。

室井先生はその頃兵庫高校で教鞭を取っておられ，学校の近くの神戸市長田区片山町にお住まいであった。その向かいに拙宅があった。ご縁はその頃である。近くにはまだ山野があった。気安く連れて行っていただいた。

無造作に取り上げられた一本の野の花。繊毛が逆光に映えていた。はじめて知る野生植物の美しさ。山野を駆け，自然に染まる歓びを覚えた。室井先生はすでに青年の頃から野の人であった。16歳の頃には雪彦

写真1　昭和22年8月12日　兵庫県生物学会香住海岸での研修会集合写真。室井先生は前列右から3人目のすぐ後ろにおられる。

＊森羅万象の舘　博物館学芸員
2014年3月26日受理

山天南星を発見されている。戦後になって社会の自然ブームは一度に開花した。室井先生の旺盛な活動はすでにはじまっていた。先生はどちらかといえば人を巻き込んで行動される方である。その当時まわりには川崎生悦，古川博二，東　生雄,藤本義明，岡村はた，猪俣涼一先生など大勢の方がおられた。兵庫県生物学会は昭和22年森為三先生を会長にお迎えして発足した。香住での海岸林野の観察・講演会は50人合宿。町をあげての賑やかなものであった。このときの香住海岸での集合写真が残っている。(写真１)。続いて幽谷の音水渓谷のクラガリしだ，船越山の高木に着生するベニカヤランやアオネカズラの群落，麻耶山林床のまやらん発見。常に室井先生のお姿があった。昭和48年度には会長に推挙されている。
六甲山系，播州平野県下殆ど隈なく廻られている。神戸税関内の渡来植物調査，富士竹笹類植物園の建設，竹の開花のメカニズムの調査なども多忙な最中にこなされている。

室井先生は庶民の中の人であった。タケ・ササの権威者だけでなく，その博識は民俗，料理にも及んだ。何所へでも気安く講演に出掛けられた。これなんや。先生の投げかけ節は有名である。草木の会には主婦や子供，サラリーマンなどや本職の学者も集まった。兵庫区の上沢通り，明石の高層マンションの一室での勉強会。当津隆先生が常に室のお世話をされていた。室井先生と歩く観察会には平畑政幸，白岩卓巳両先生もよく同行されていた。

とある日の観察会。須磨の古民家の門前。おいこの樹知っとるか。先生の問いに皆が答えあぐねていると，家の中から奥さんが出て来て，それはめったにない珍しい樹ですよ。なにしろ室井先生というえらい先生のお話ではと前置きして室井先生ご当人の前で講釈を始めた。さすがの先生もこれには苦笑い。なつかしい一齣である。

室井先生はお年を召されてからは明石江井ヶ島海岸のマンションに住んでおられた。東京のご親族のご配慮の上と聞いている。普段は岩島登美子さん,芦田千代子さんが何かとお世話されていた。明石海峡を眺める絶景のロケーションである。更にこの地は先生に不思議なご縁がある。マンションの直下の海岸縁に明石原人遺跡の発掘現場がある。往年の室井先生がよく訪れられたところである。東二見の旧家の庭の履石,これ象の頭やないか。あのときの室井先生の頓狂なお声を覚えている。室井先生がこの地方を終いの家にされたのは全くの偶然であると聞いている。いま一度先生お元気なときに岩島さんとわたしと三人でこの地に佇んだ。近くに建物が散見されたが，海の蒼さはいささかも変わっていなかった。

ありのまま，だれかれの隔たりなく，主婦も年配者も子供も先生を取り囲む。その中に先生がある。質問を投げかける。いつまでも野を駆ける人。いまは天空を駆ける室井綽先生。この果てのどこかに宇宙植物が生えているかもしれません。先生,ウチュウエンシスを発見してください。